

第8回富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議の概要

1 日 時 令和2年10月6日（火）13：30～15：00

2 場 所 富山県民会館 8階 バンケットホール

3. 内 容

(1) 表 彰 式

(2) 議 事

ア. 食品ロス等の削減に向けた取組みについて

イ. 意見交換

4 主な意見の概要

<食品ロス削減対策全般>

- ・ 富山県は、県民会議を中心とした削減のための推進体制がしっかり整備され、事業者・消費者・行政が連携して取組みを進めていることが強みだと思う。12月の全国大会を通じて、このような取組みをぜひ全国の皆さんにもぜひ知っていただきたい。
- ・ 全国に先駆けた食品ロス削減推進計画の策定や全県的な削減運動の展開、表彰制度の導入など、こうした取組みを大いに全国的に広報してほしい。また、表彰の受賞者の活動内容をお披露目する機会があると良い。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、様々なことが変化しているが、そういった新しい動きも見据えながら、食生活を見直していければ良い。
- ・ 県内でも、様々な取組みが定着してきたように思うが、SDGs のようなもう少し大きな観点で考え、取組みを進めていくべき。
- ・ 学習、教育が非常に重要であり、小学生や学生が SDGs を理解して食品ロス削減に取り組むことで、大人や企業も連携した取組みを推進することができるのではないかな。
- ・ 消費者が事業者の取組みや努力について学ぶことは非常に重要。事業者側からももっと情報発信していただけると良い。
- ・ 県の食品ロス削減推進計画ハンドブックは、内容が少し難しいように思うので、上手い活用法、あるいは、もう少し分かりやすい内容での増刷を検討してはどうか。

<家庭系食品ロス削減の取組み>

- ・ 食品ロスは、次世代を担う子供たちにとっても、比較的わかりやすいテーマであり、冷蔵庫管理は子供達にとっても、楽しみながら取り組めると思う。子供達にも役割を持たせて、今後取り組んでいけることを少しずつ増やしていけばどうか。
- ・ 小売店の個々の商品の販売量が多すぎる。少子高齢化、核家族化が進む中で、ばら売りや小容量販売などの販売方法は重要。事業者、消費者、行政が一体となって、様々な販売方法を考えるべき。

<事業系食品ロス削減の取組み>

- ・ コロナ禍以前は、宴会での食べ残しを削減するため、食べきり 3015 運動を呼びかけていたが、新しい生活様式の定着により、お酌しない、席を立たないお客が増え、料理の食べ残しが大変少なくなった。コロナをきっかけに、料理を食べきることが習慣化していけばよい。
- ・ 旅館・ホテルとしては、冷蔵庫の数や大きさを見直すことが重要だと考えている。店側からすると、大量仕入れの方法が楽ではあるものの、このやり方は結構食材が余る。冷蔵庫を買い替えるときに、不要な冷蔵庫の廃棄や小さなものへの買い替えなどを検討することが非常に有効ではないかと思う。

<フードバンク>

- ・ フードバンク活動の促進には、食品提供側と受取側をマッチングするコーディネーターが必要ではないか。
- ・ 食品関連事業者のフードバンクに関する認知度は低く、不定期に発生するものを、どこに、どのようにして提供すれば良いのかわからない。食品の提供側と受取側のマッチングするような仕組みや工夫があれば、上手くいくのではないか。
- ・ 県社会福祉協議会では、全国チェーンの大きなファストフードの会社と連携して、余った食材をこども食堂に提供する取組みを進めている。今後、こうした活動が市町村の社会福祉協議会、あるいは各市町村にある福祉施設などにも波及し、地域での活動拠点としての役割を担っていただけるように、少しずつ輪を広げていければよい。
- ・ 国も都道府県もフードバンク活動に関する所轄官庁がない。フードバンク活動は、福祉事業なのか、それとも食品ロス削減という観点から一つのツールなのかがはっきりしない。活動の主軸をどこに置いたらよいか明確でないことが、フードバンク活動のある程度の制約につながっているのではないか。こうした点をどのように整理していくが、国も県も検討が必要。